

令和3年度第1回林野庁入札等監視委員会 審議概要

開催日及び場所		令和3年6月18日(金曜日)林野庁A会議室	
委員		前原一彦(公認会計士)	長谷部修(弁護士)
審議対象期間		令和3年1月1日～令和3年3月31日	
審議対象案件		21件	うち、1者応札案件 8件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
抽出案件		4件 (抽出率 19%)	うち、1者応札案件 2件 (抽出率 25%) 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件 (抽出率 1%)
工事	一般競争	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
	公募型指名競争	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
	工事希望型競争	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
	その他の指名競争	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
	随意契約	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
	一般競争	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
	公募型競争	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
	簡易公募型競争	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
業務	その他の指名競争	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
	公募型プロポーザル	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
	簡易公募型プロポーザル	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
	標準型プロポーザル	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
	その他の随意契約	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
	一般競争	2件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
	指名競争	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
	随意契約(企画競争・公募)	1件	うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
物品・役務等	随意契約(その他)	1件	うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
	(特記事項) ・抽出の4件については、落札率の高かった契約等を抽出した。		
委員からの意見・質問、それに対する回答等		意見・質問 (詳細に記述すること。) (別紙のとおり)	回答等 (詳細に記述すること。) (別紙のとおり)
委員会による意見の具申又は勧告の内容 [これらに対し部局長が講じた措置]		該当なし []	[]

事務局:林野庁林政部林政課会計経理第1班

(注)公益社団法人等とは、公益社団法人又は公益財団法人(一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第42条第1項に規定する特例社団法人又は特例財団法人を含む。)をいう。

	意見・質問	回答
委員からの意見 ・質問、それに対する回答等	<p>抽出契約について [抽出番号 1 : 林野庁東陽宿舎 2 号棟内装等改修工事]</p> <ul style="list-style-type: none"> 途中で 2 者辞退したことですが、理由はわかりますか。 工期はどれくらいでしたか。 内装工事ということで、工期が短くとももう少し入札に参加する業者があっても良いかと思いますが、いかがでしょうか。また、もう少し余裕を持った日程でしたら、入札者も増えますか。 契約額が約 3,400 万円で、建物の延べ面積が 1,303 m² ぐらいですので、坪単価 10 万円を割るぐらいですが、随分安いなと思うのですが。 <p>[抽出番号 2 : 令和 2 年度航空レーザ測量成果を用いた森林地形解析業務]</p> <ul style="list-style-type: none"> 2 者とも予定価格よりかなり低い価格で入札していますが、予定価格を算出されるときに実際は半分ぐらいの価格でできると予測はできませんでしたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 理由は特に確認していませんが、他の事業体から工期が厳しいので入札を見合せたという連絡がありました。 約 3 週間です。工事の内容的には十分に確保できていると思いますが、業者の対応によってできるできないがあると思います。ただ、辞退した 2 者については理由を確認していませんので、はっきりしたことはわかりません。 公告を見て、数社から問い合わせはいただいたので、もう少し業者が来てもおかしくないと思うのですが、もう少し工期が長ければ、入札参加者も増えたかもしれません。 今回はそのうちの 4 部屋の工事で、実際は 64 m² × 4 部屋分となりますので、一般家庭のリフォームと同じくらいかかります。 結果的に低入札になりましたが、予定価格を算定する時点では、一般的に必要な人工や工程を勘案して算定しています。

・同様の業務は今後全国に広げる可能性はありますか。

・全く今回と同じやり方で第2弾第3弾ということではなく、同じようにやることもありますし、先進的なリモートセンシングの活用という意味でレーザ測量やそれを分析して色々な使い方をするという分野は広がっていますので、このようなデータの取得の仕方はこれからも広がっていくと思っています。

・入札者が2者だけだったというのはどのように考えていますか。

期間に余裕をもって公告を出すことは難しいですか。

・期間的にタイトであったところはあったと思います。

本来はそうすべきだと思いますが、色々な事情が重なってこのようなスケジュールになってしましました。

・今回は低入札調査の対象になりましたが、相手方に低入札であったと伝えてしまうと、予定価格と乖離があったと明かすことになりますが、その点はやむを得ないということですか。

・低入札になったため、本当にその金額で履行できるのか調査を行わなければいけませんので、やむを得ないと思います。

[抽出番号3:令和2年度革新的造林モデル普及業務]

・1者応札になった理由は何かありますか。

・現在、別途1者応札の事後調査としてアンケート調査を行っているため、詳細の検討については、それをもって検討していきたいと思っています。

・直接経費の内訳はわかりますか。

・通信費、委員への謝金や旅費、外部の方への原稿料、あとは印刷にかかる経費等になります。

・有識者組織を設置することになっていますが、どんな資格、経歴の方が多いですか。

・森林総合研究所の研究者、周りに対して良い影響を与えている造林事業者、事例の収集に長けているメ

ディアの方などに入っています。

・通常、各契約の履行期限は年度内になると思いますが、これは例外的に今年度にずれ込んでしまったということですか。

・基本的には、各年度ごとに実施しますが、今回のものは補正予算によるもので、繰越すことを見込んで入札公告を行い、契約後に繰越の手続きを行い、今年度も引き続き事業を実施しています。

・革新的造林モデルということで、手元の資料に造林の定義や事業の背景が書いてあり、造林は林を生き生きとしたものにするためにテクニカル的なものを研究するイメージを持ちましたが、よく読むと林業に従事されている事業体の効率化等、経営的なことが主眼になっているように見えます。その辺の背景をもう少し教えていただけますでしょうか。

・基本的な目的としては森林をしっかりと育てていくことですが、現在森林の伐採をして木材を使ったとの再造林が重要となっています。しかし、木材の値段が昔ほどまでは上がっていないが、人件費や資材費などのコストが上がっている高コストの状態が続くと補助金があっても造林者の負担が大きくなり再造林されない場合があることが大きな背景としてあります。高コスト体质から脱却して経営をしっかりとけるように、こういう技術を使うとこれだけコストが下がりますよということを広く周知することでコスト全体を下げてもっと再造林をしてもらおうというのが主眼になっているところです。また、造林も木を植えるということだけではなく、下草刈りや間伐除伐というような保育についても合わせて技術面、経営面で良いものを周知していくというというのが目的になっています。経営がうまくいかないと造林もできないということになります。

〔抽出番号4：令和2年度合板・製材・集成材国際競争力強化・輸出促進対策のうち日本産木材製品の新たな輸出先国調査（中国等）〕

- | | |
|--|---|
| ・5名で採点されていますが、採点者によってばらつきの大きい項目がありますが、こんなに差があるものですか。 | ・個々の採点者の所感に応じて採点しているので当然ばらつきは出ますが、比較的大きく差が開いているのはその通りだと思います。特に採点者ごとのばらつきのある項目は、事業目的や事業の実施内容となります。これらは事業の内容の根幹にかかるところなので、提案者による実施内容により事業目的の確実な達成が見込まれるかどうかという観点で、採点者によって差異があったものと考えおります。
最終的に総合してみたときに、各評価項目について、採択者は平均的に満足できる以上の水準を全て超えておりますので採択するにあたって問題はないと思っています。 |
| ・こういう調査は費用をかけなければかけただけいいものができる、低予算であればそれだけの調査になってしまう。どの辺を目標にしているかによってどのくらいの予算かが決まってくると思うんですけども、今回の金額は林野庁の方でこういう調査をして満足できる報告が上がってくる数字ということで算定されたということでしょうか。 | ・全く違う調査ですが、過去にこういった海外の流通規制などについて東南アジア地域を中心に調べたものがありまして、そのときに比較的まとまった調査結果が得られましたので、そういった過去に行った調査等を勘案して金額を算定した次第です。 |
| ・中国やアメリカなり輸出をしていくということですが、イメージではどちらかというと木材は海外の方が安く日本はコストがかかって競争力が弱いというイメージを持っているんですが。 | ・まさしくそのとおりです。一昔前は国産材は供給量も限られていてあまり競争力がなく、日本の木材市場は外国産材が多く入ってきてというような時代でした。しかし、今は風向きが変わってきて、少し国産材の供給量が大きく増えてきています。世界の木材市場も変わってきており、アメリカや中国で地場の木材が枯渇している状況があり、ここに日本のスギが代替樹として入っているということも起こっています。このようにマーケットが大き |

	<p>く変化している中で、全体として木材市場は拡大傾向にあると思って います。</p>
<ul style="list-style-type: none">・ここ数ヶ月コロナの関係でいわゆるウッドショックという話を聞いたことがあるんですけれども、結果としてはそういうことと少し関係するのかなと思いながら、もともとこれは予定されていたことでしょうから必ずしもそういう目的でやってきたわけではないということなんでしょうね？	<ul style="list-style-type: none">・ご指摘のとおり今ウッドショックという形で外国産材が入らず国産材が高騰している状況になってます。これがいつまで続くかはありますが、長期的な視野で日本の住宅着工数が下がっていき、日本の資源量が充実していく中で、売り先を海外に求めていくというのは必要になってくると思っています。ウッドショックに限らず、事業者には海外に長期的な視野で目を向けていただきたいという思いで行っています。
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none">・委員会としての意見はなし。	